

智



佐野渡

雪能

ハツ橋

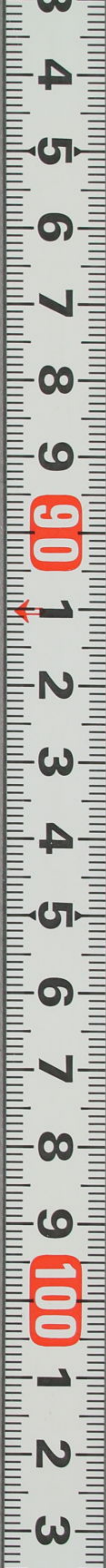
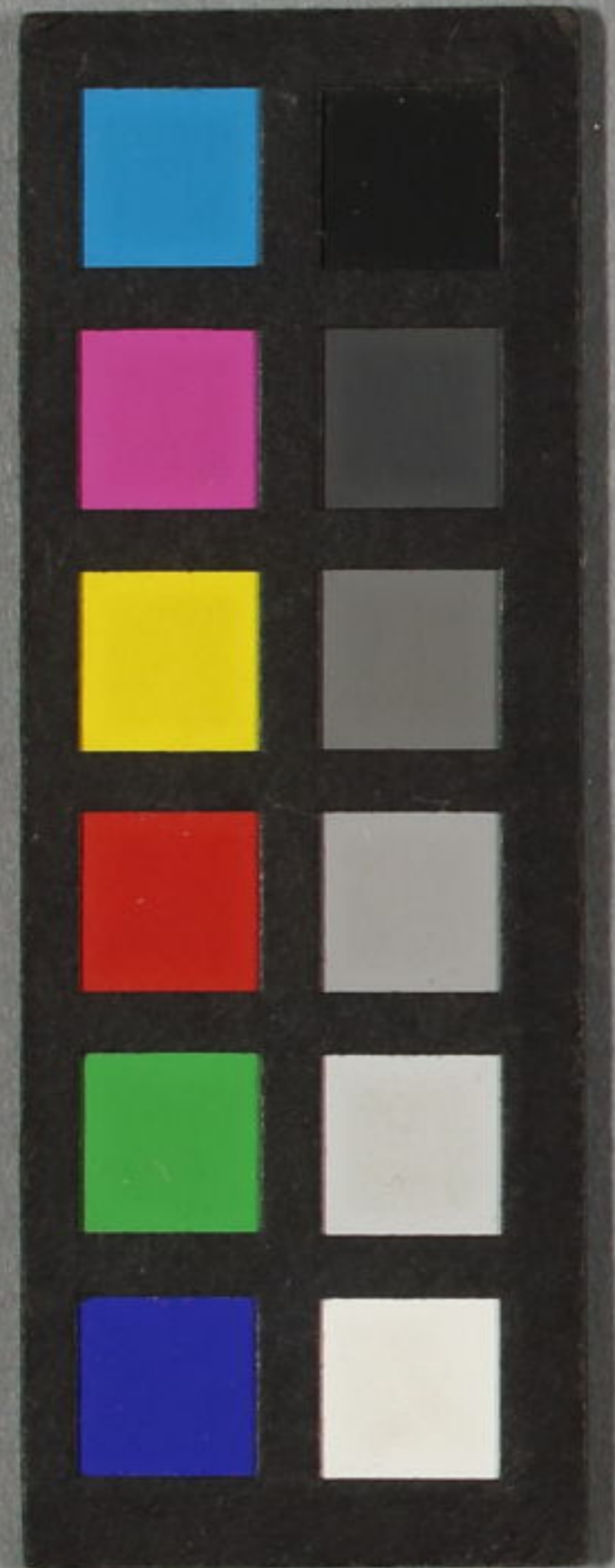
四編

乙卯初春  
新板

春水著  
國麿画



~ 13  
3745  
4



今篇第四輯ふ出せとるの二荒山又日光下毛國都賀郡小々人王四十八  
 代祢徳天皇の御宇勝道上人開創す勝道の垂仁帝第九の皇子卷向  
 尊十余代の孫若苗姓高藤磨の子ありと云云尔来弘法慈覚の兩大  
 師統りて深山為のつ所々の堂社を建立を憚る又山ありて這山の  
 中道より奥の女人及牛馬を登せを仍て馬返村と云地名の里ありと俗  
 のく知る処と云新小言んぬとありやこれと女人禁制の深山鹿沼郡  
 領敦実が早川邊汝と名づけたる二個の側女を伴ひて事看官怪とた  
 ますもあそ一開い又後小自ら分解先死意味ある歟今あらぬと云言け  
 るに僅小作者の用心を考へて半員を塞ぐ

乙卯八孟陽新販


 爲永春水誌る



門 13  
號 3745





鹿沼の取次士  
姓名  
未詳

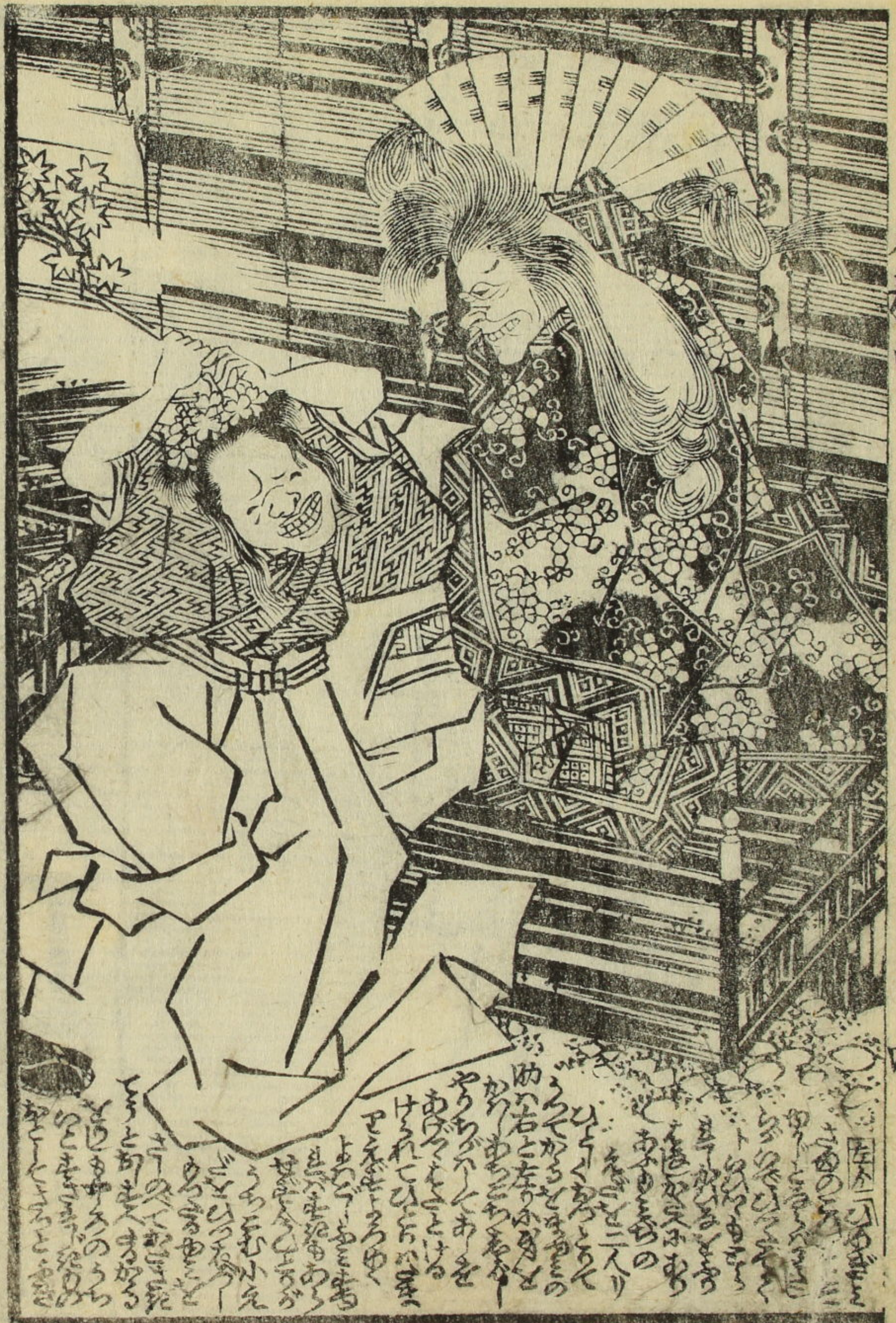
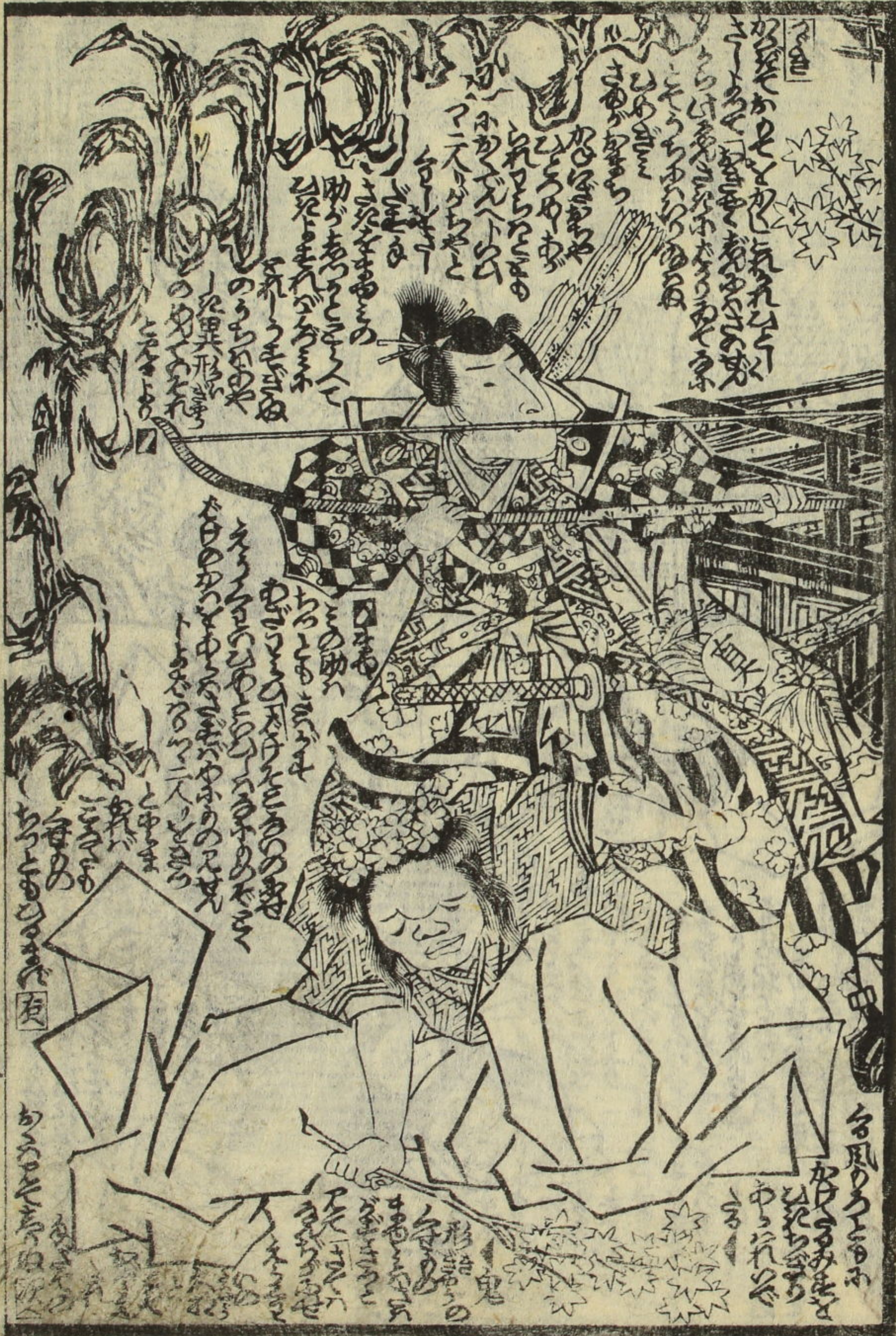
稲村蔭の盛平者



安藤の  
駒平  
中野の  
軽平

下奴  
阿波平



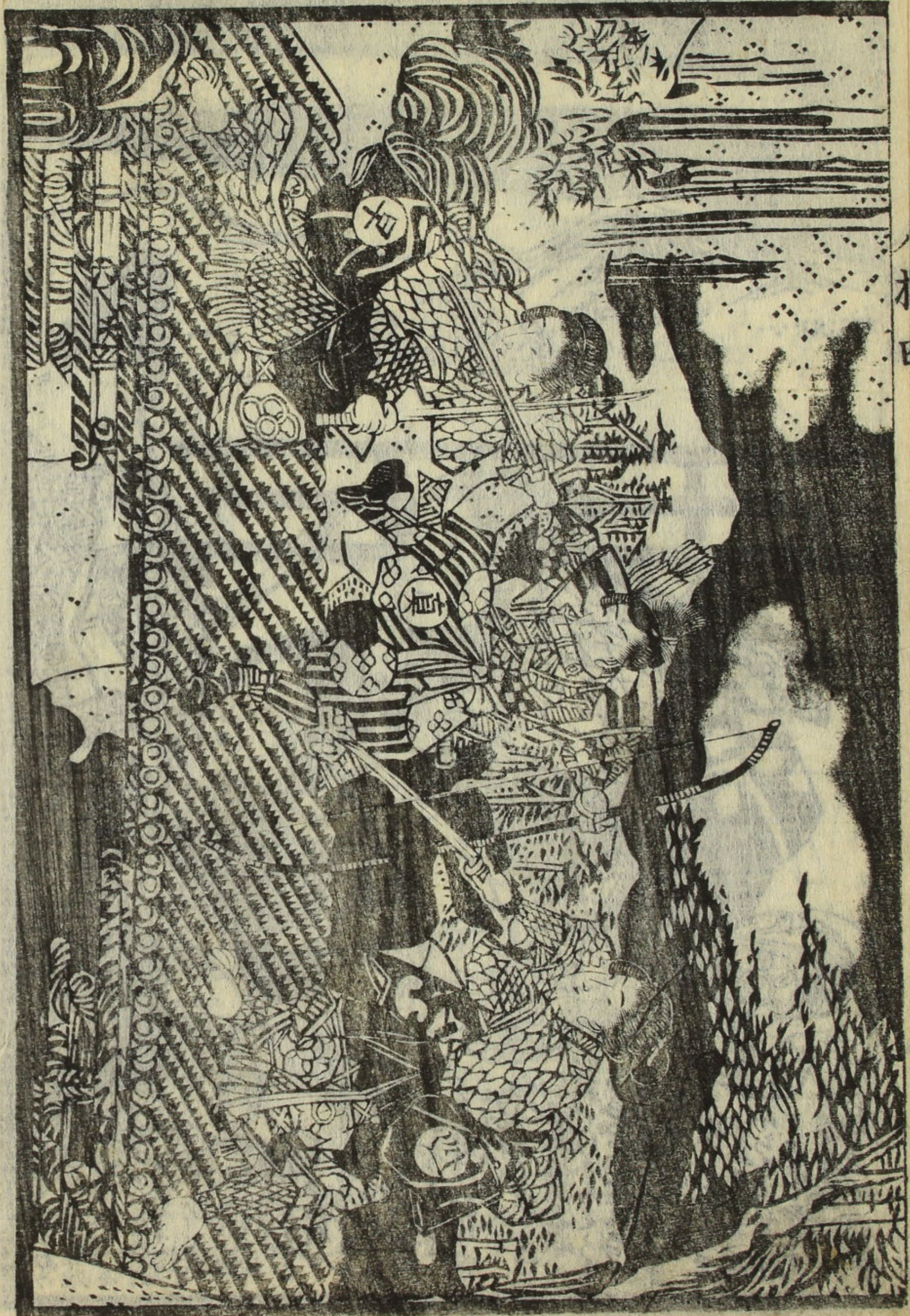




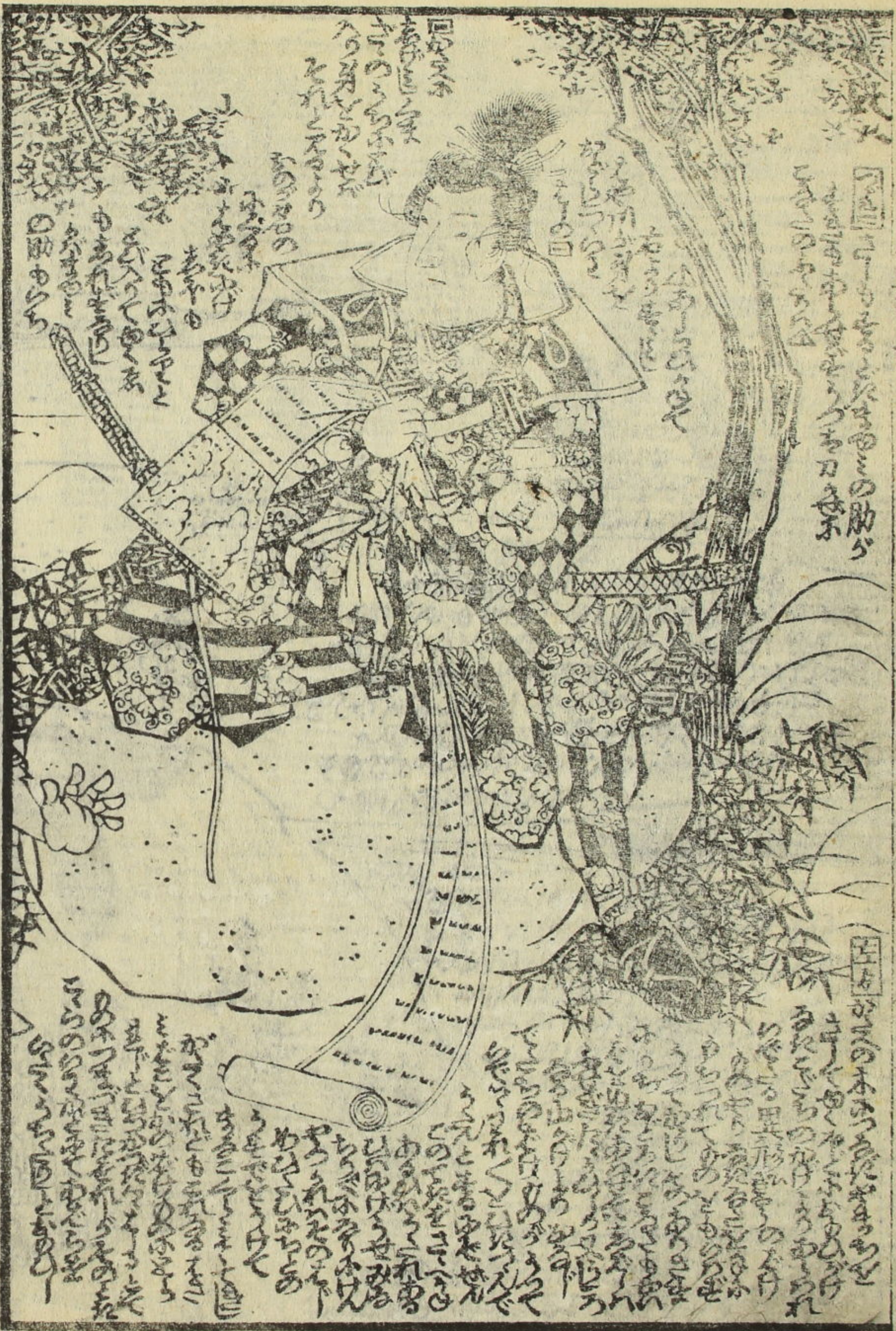








「三」もさうと云ふの助け  
 一足はあつちをうらりちいさ  
 こゝろやちいさ



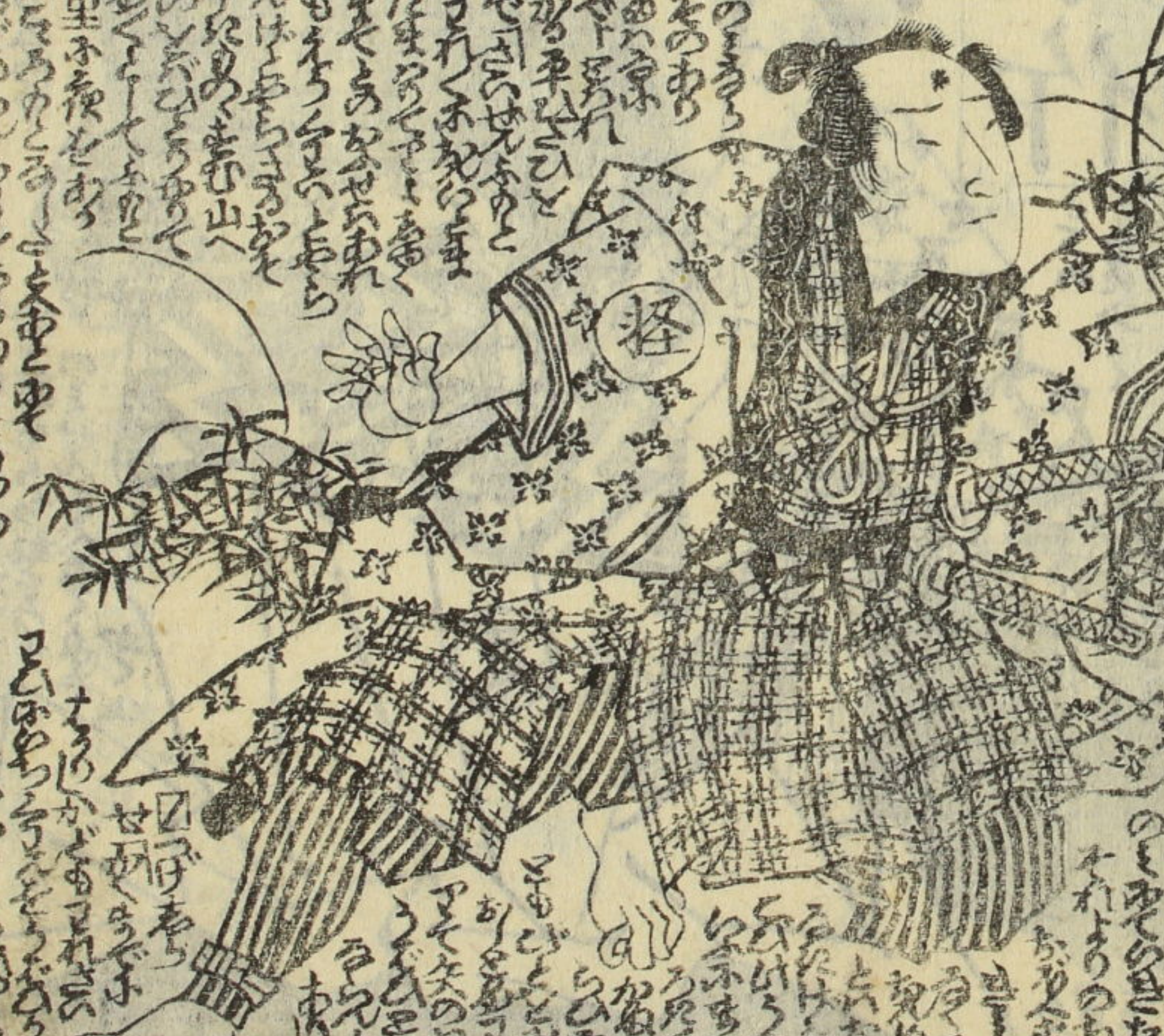
「四」あつち  
 こゝろやちいさ  
 一足はあつち

「五」あつち  
 こゝろやちいさ  
 一足はあつち

「六」あつち  
 こゝろやちいさ  
 一足はあつち

「七」あつち  
 こゝろやちいさ  
 一足はあつち

「八」あつち  
 こゝろやちいさ  
 一足はあつち







佐野渡雪八橋

四編下

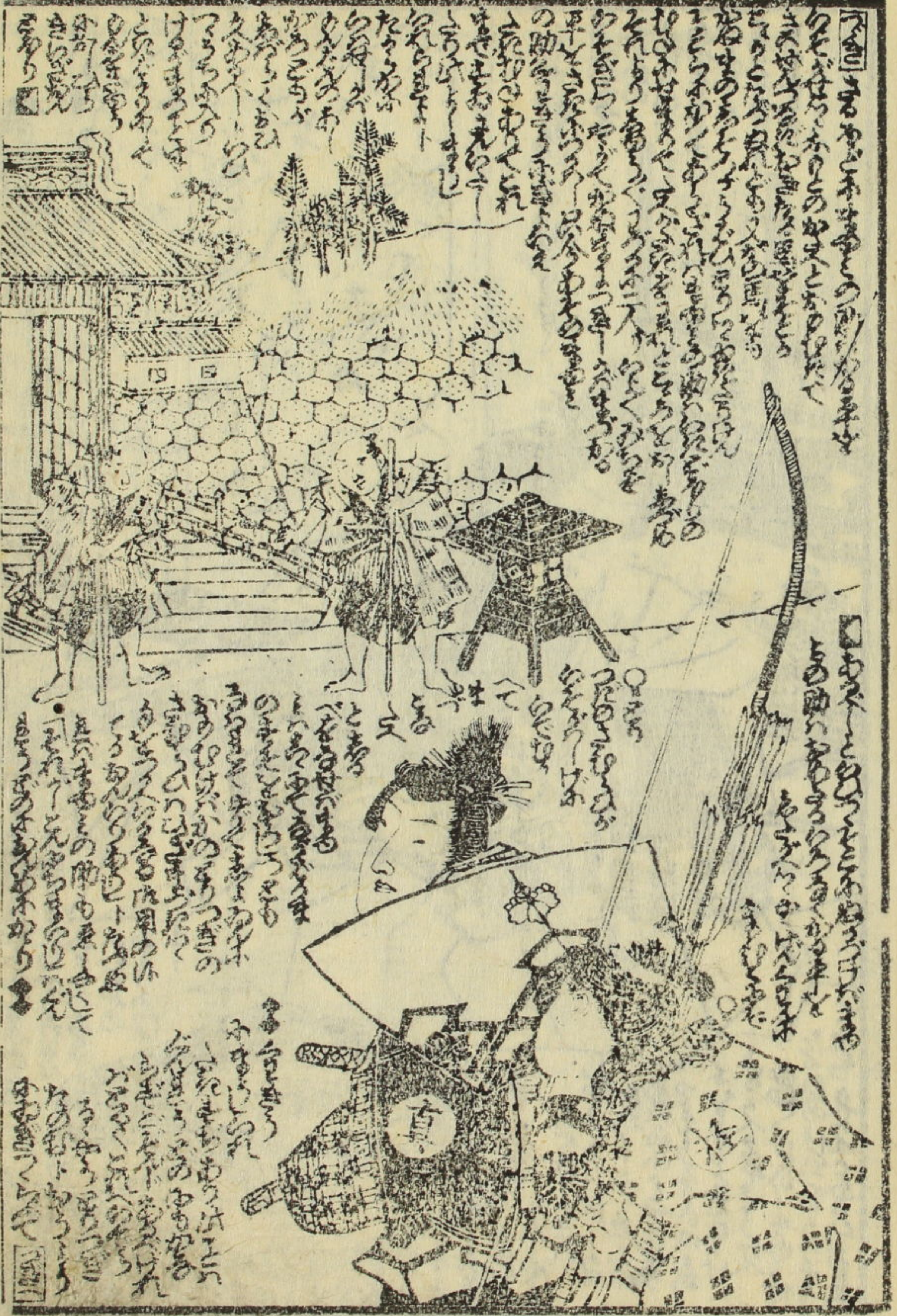
板平大

四編上

太蝶樓國麿画

為永春水作

介題也之阿也



喜水作  
國唐画

佐那海

雪子ハツ橋

四遍下巻

赤考子方國  
大里屋平吉撰





一書四

十三



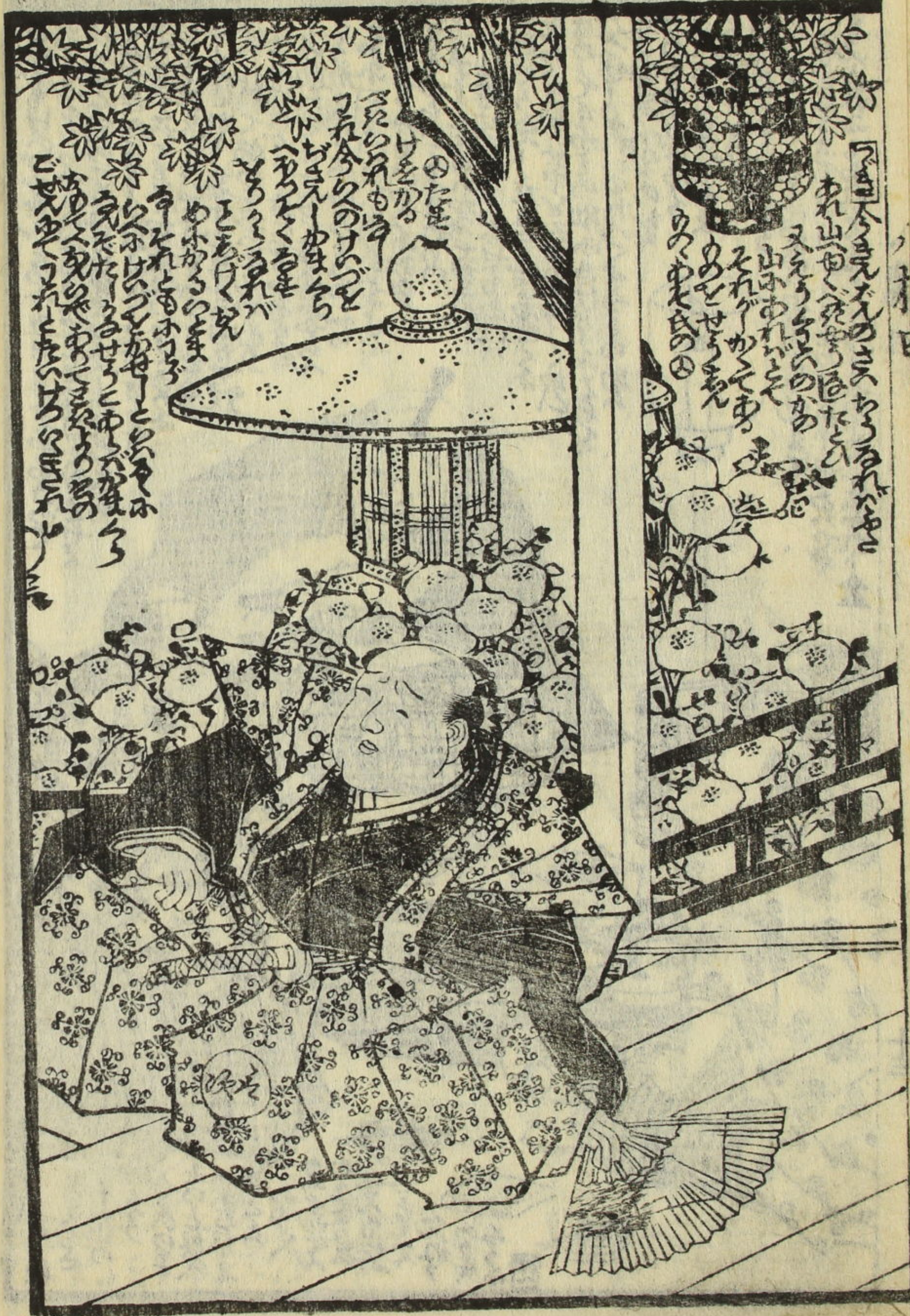
六本四

十二





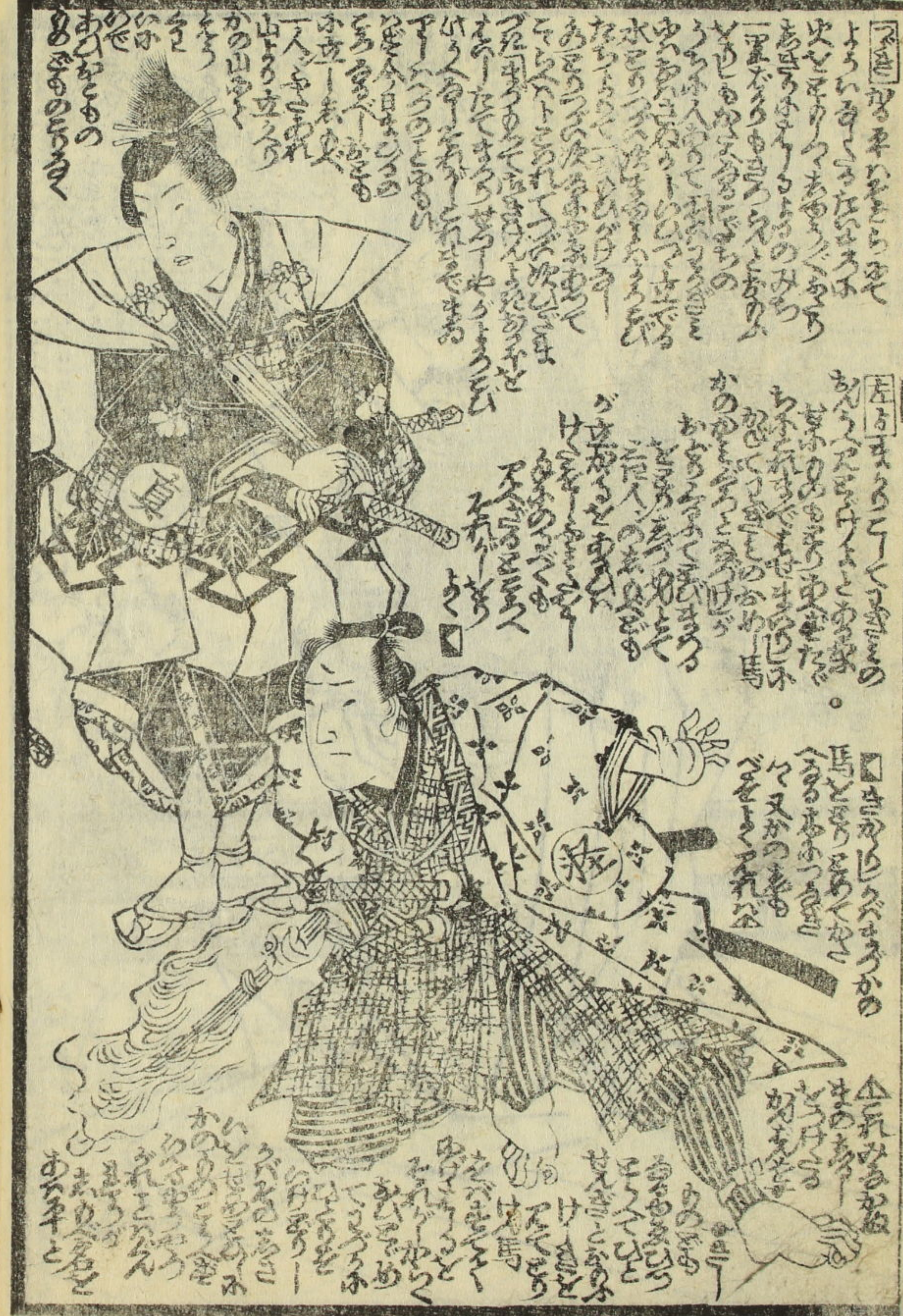
八橋四





右の馬に乗るは...  
左の馬に乗るは...  
山ありて...  
下ありて...  
上ありて...

右の馬に乗るは...  
左の馬に乗るは...  
山ありて...  
下ありて...  
上ありて...  
あつたもの  
あつたもの



右の馬に乗るは...  
左の馬に乗るは...  
山ありて...  
下ありて...  
上ありて...

右の馬に乗るは...  
左の馬に乗るは...  
山ありて...  
下ありて...  
上ありて...  
あつたもの  
あつたもの

三の巻の... 馬... 矢... 助... 助...



高四

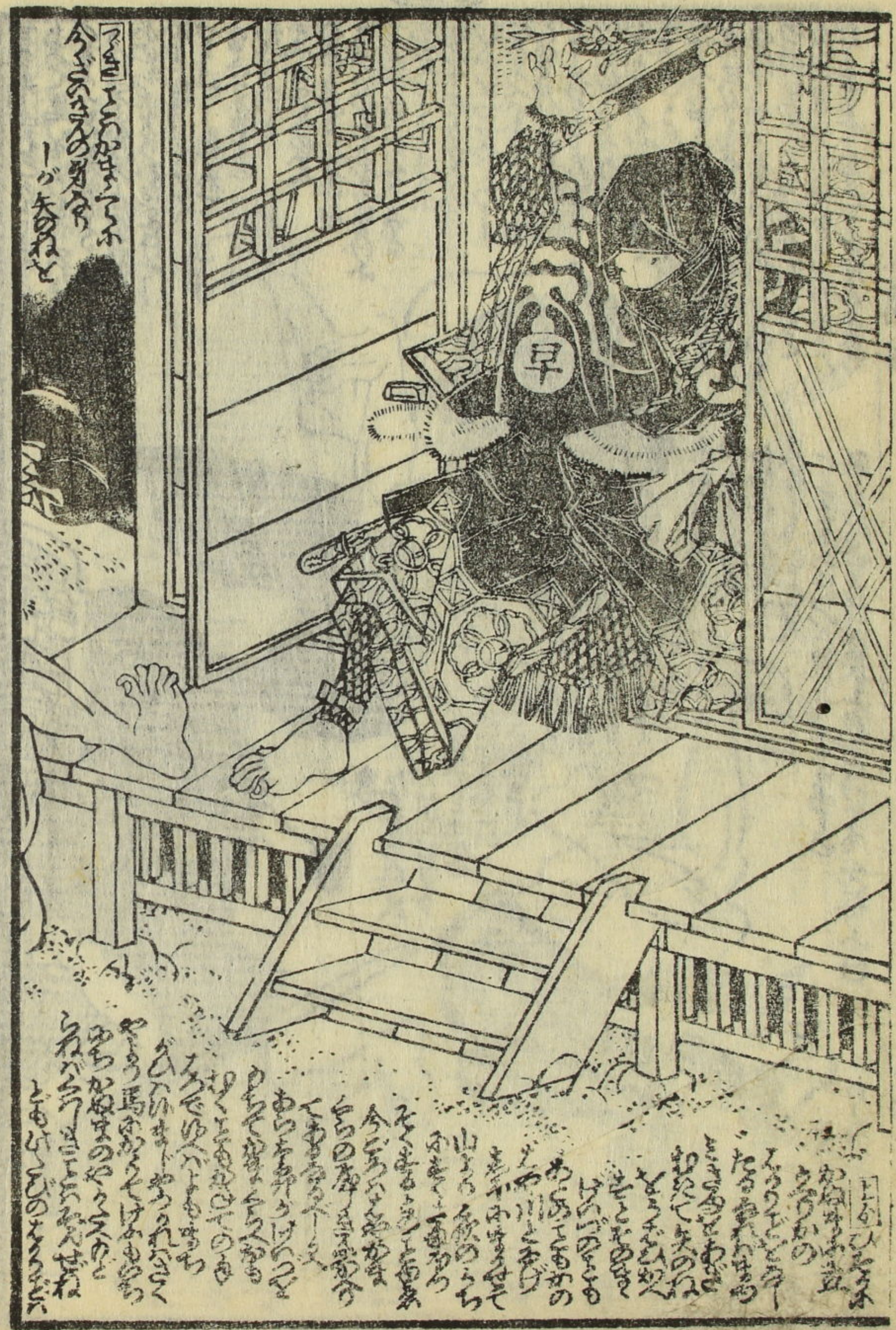
十一



馬... 矢... 助... 助... 馬... 矢... 助... 助...

高四

十一





馬  
木  
の  
名

八  
角  
五

あつたかど  
ふたれも  
とらふ  
かき  
お  
あつたかど  
ふたれも  
とらふ  
かき  
お  
あつたかど  
ふたれも  
とらふ  
かき  
お  
あつたかど  
ふたれも  
とらふ  
かき  
お



あつたかど  
ふたれも  
とらふ  
かき  
お  
あつたかど  
ふたれも  
とらふ  
かき  
お

あつたかど  
ふたれも  
とらふ  
かき  
お  
あつたかど  
ふたれも  
とらふ  
かき  
お  
あつたかど  
ふたれも  
とらふ  
かき  
お  
あつたかど  
ふたれも  
とらふ  
かき  
お



四十四里の道の  
みちをたてしむる  
のむすぶかたは  
ついでに八雲の  
おまへをたてしむる

四十四里の道の  
みちをたてしむる  
のむすぶかたは  
ついでに八雲の  
おまへをたてしむる

四十四里の道の  
みちをたてしむる  
のむすぶかたは  
ついでに八雲の  
おまへをたてしむる

四十四里の道の  
みちをたてしむる  
のむすぶかたは  
ついでに八雲の  
おまへをたてしむる

四十四里の道の  
みちをたてしむる  
のむすぶかたは  
ついでに八雲の  
おまへをたてしむる



四十四里の道の  
みちをたてしむる  
のむすぶかたは  
ついでに八雲の  
おまへをたてしむる

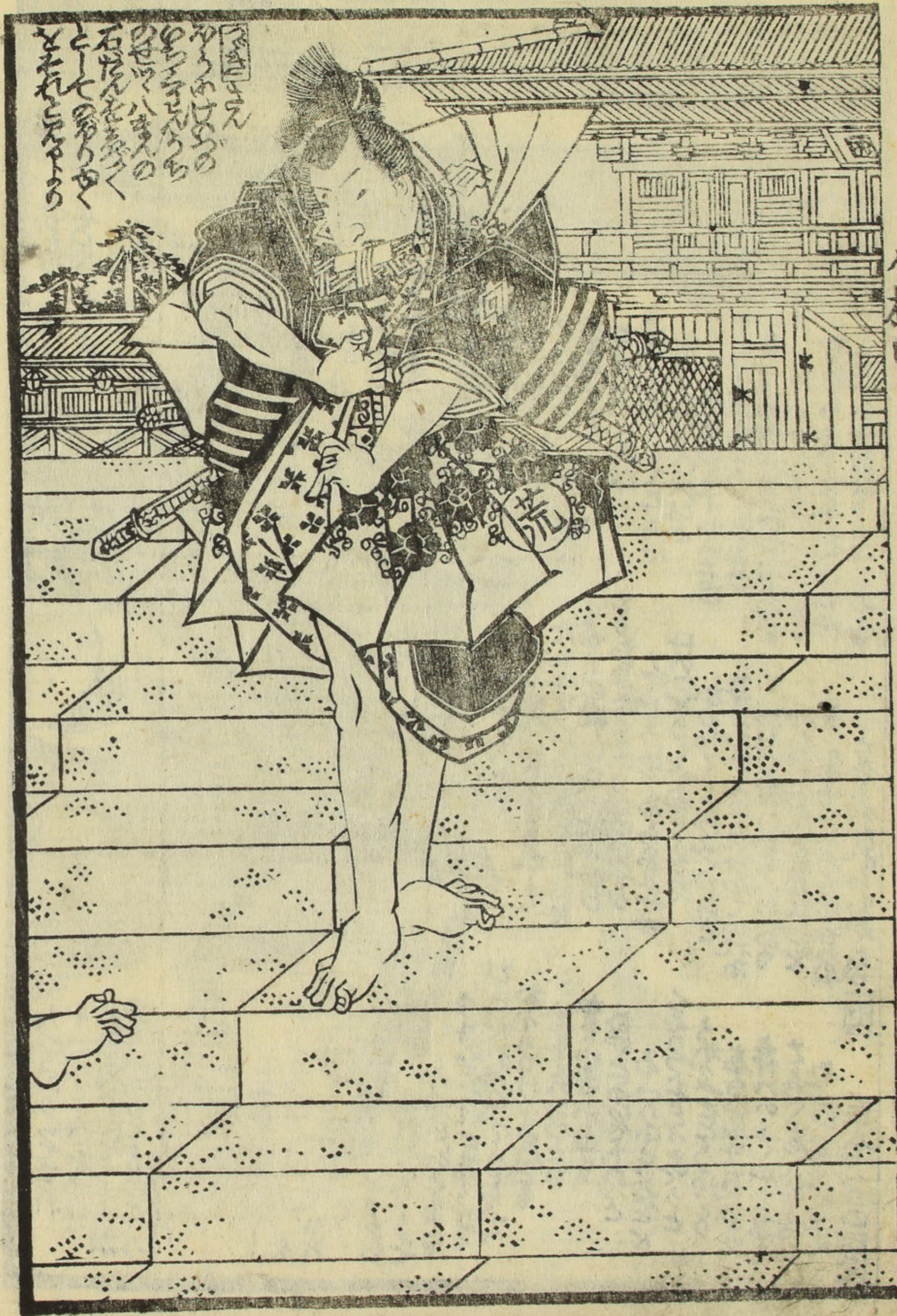
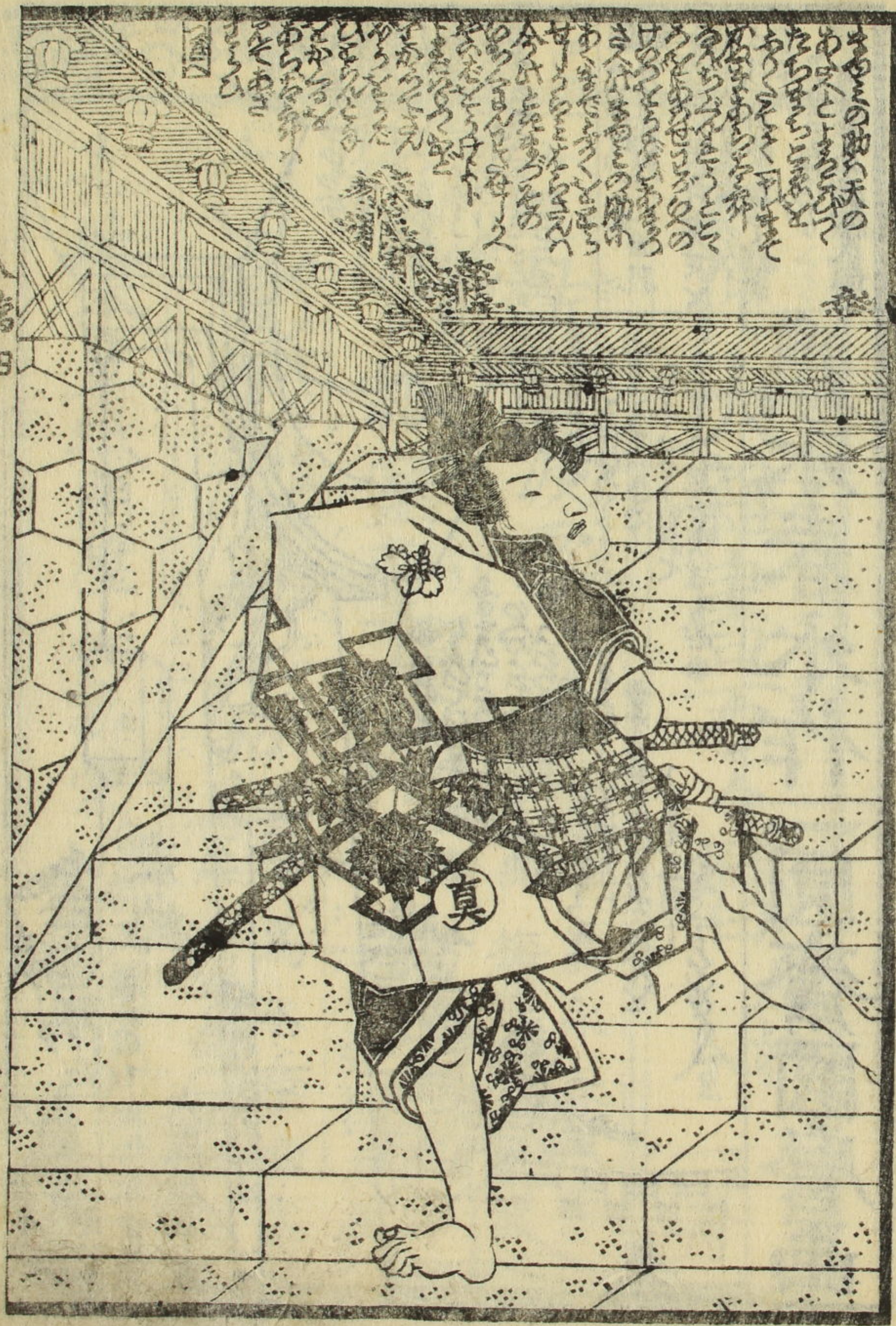
四十四里の道の  
みちをたてしむる  
のむすぶかたは  
ついでに八雲の  
おまへをたてしむる

四十四里の道の  
みちをたてしむる  
のむすぶかたは  
ついでに八雲の  
おまへをたてしむる

四十四里の道の  
みちをたてしむる  
のむすぶかたは  
ついでに八雲の  
おまへをたてしむる

四十四里の道の  
みちをたてしむる  
のむすぶかたは  
ついでに八雲の  
おまへをたてしむる

四十四里の道の  
みちをたてしむる  
のむすぶかたは  
ついでに八雲の  
おまへをたてしむる



安政六己未孟春發行目錄

弘化大雜書万々曆 大本 全一冊

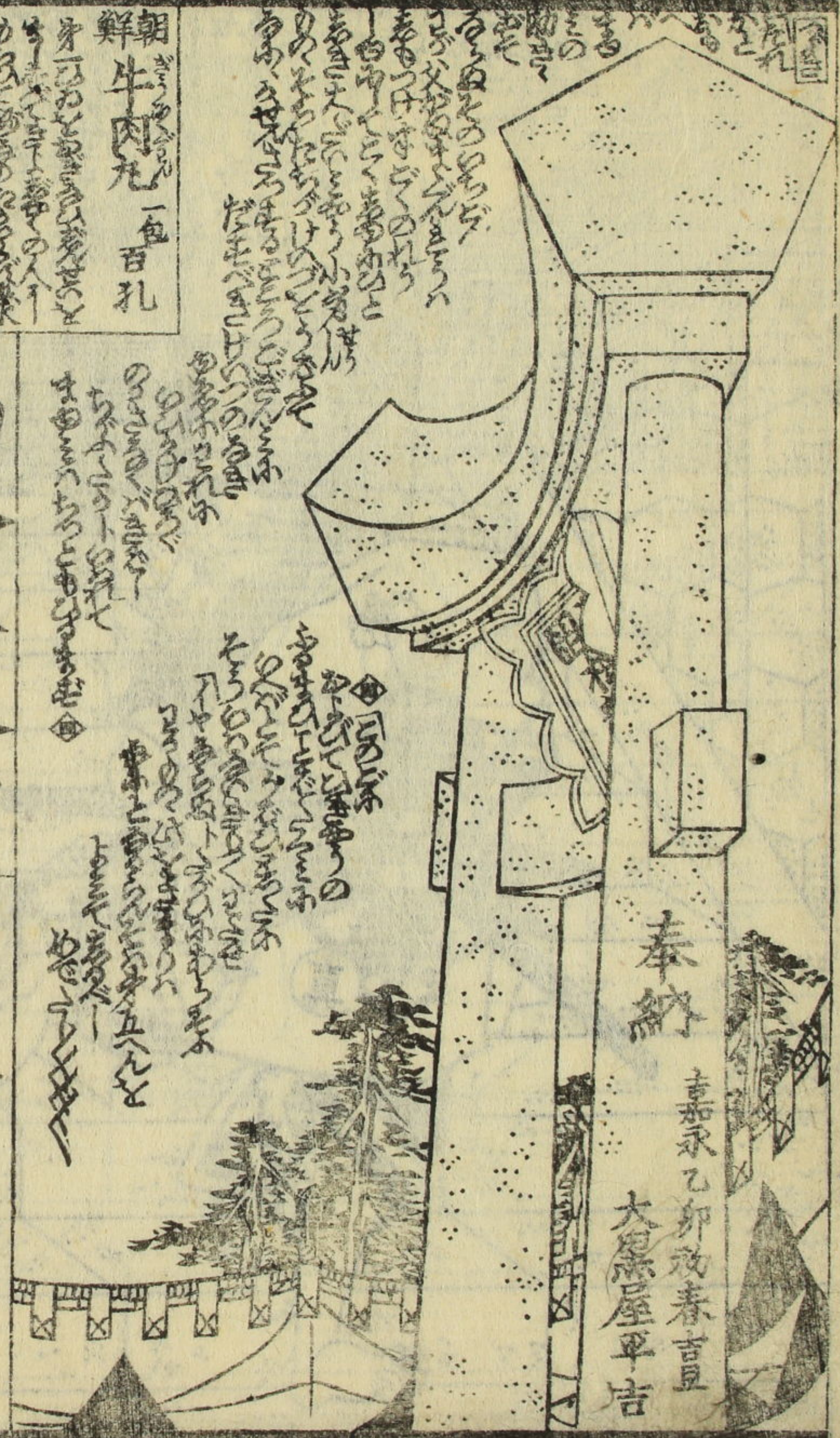
○ 佐野渡雪八ツ橋 七編 為永春水作  
八編 梅蝶樓國貞画

○ 昔語室壁太郎 五編 為永春水作  
六編 一壽齋國貞画  
七編

○ 愛娘出世太平記 三編 為永春水作  
四編 一曜齋國郷画

地本草紙問屋松壽堂 東都兩國吉川町  
大黒屋平吉板

為永春水作一圓齋國曆画



朝鮮牛肉丸 一色 百孔  
身一のりなど...  
対及卒死...  
マキハ

鮮牛肉丸 一色 百孔  
身一のりなど...  
対及卒死...  
マキハ

一圓齋國曆画  
嘉永乙卯...  
大黒屋平吉

一圓齋國曆画  
嘉永乙卯...  
大黒屋平吉

奉納 嘉永乙卯... 大黒屋平吉





裁前  
九心  
大志  
身